

さくらほっと NEWS

vol.50 令和元年冬号



周術期ケアセンターに関わる多職種スタッフ一同

周術期ケアセンターを2019年4月に開設しました。 …2
 腎臓内科部長のご紹介 ……4
 災害時患者受入訓練を実施しました ……3
 市民公開講座・セミナーのご案内 ……3
 名市大病院のチカラ Vol.18 ……3

地域医療機関と名古屋市立大学病院の地域医療連携



*国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています

腎臓内科部長に濱野部長が着任



腎臓内科部長（教授）として8月に大阪大学から着任した濱野です。画期的な薬剤が糖尿病性腎臓病、多発性嚢胞腎や浮腫の治療などで開発され、当科ではこれらの最新の薬剤も含めて提供し透析にならないように最善のことをさせていただきます。また病状が進行し末期腎不全になった際には、3つの選択肢（血液透析、腹膜透析、腎移植）を提供します。心機能の悪い場合や、ライフスタイルの関係で血液透析のために病院に通えない場合、腹膜透析を積極的に推奨します。

末期腎不全の患者さんは、腎不全ではなく心血管合併症や感染症で亡くなります。当科では、腎臓しか診ないという姿勢ではなく、腎不全に伴う貧血、骨、心臓合併症の早期診断とその治療にも幅広く取り組み、腎不全患者さんのトータルケアにあたります。

災害時患者受入訓練を行いました

当院は災害拠点病院に指定されております。災害時には愛知県の医療救護活動の拠点となり多くの被災傷病者を受け入れられるよう、施設設備の整備、食料等の備蓄はもとより毎年患者受入訓練を行っています。



今年度の訓練は10月6日（日）に実施し、平日の外来診療中に震度6強の南海トラフ大地震が発生したという想定のもと、外来患者さんの安否確認や帰宅誘導の流れを確認した後、被災傷病者を受け入れた際の検証作業が行われました。模擬患者として名市大の学生や近隣の陶生町内会の方々にも協力いただき、実践さながらの充実した訓練を行うことができました。

この場をお借りしてご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

今回の訓練で得られた経験や反省点を踏まえ、災害時に頼れる病院となれるよう病院機能をより充実してまいります。



市民公開講座・セミナーのご案内

日付	時間	会場(定員)	分野・診療科	講演者	内容	問い合わせ先
第1回 令和2年1月31日(金)	14:00~16:00 (13:30開場)	桜山キャンパス 西棟2F 講義室A (第1回70名)	看護学 研究科	第1回 教授 山田 紀代美	第1回 「健康寿命を伸ばすための生活術: 食べる、運動すること、人と話すこと」	昭和生涯学習センター TEL:052-852-1144 第1回は無料・申し込み不要(先着順)です。
第2回~4回 令和2年2月7日 14日・21日	14:00~16:00 (13:30開場)	桜山キャンパス 西棟2F 講義室A (第2回~4回50名)	看護学 研究科	第2回 准教授 小田嶋 裕輝 第3回 教授 薊 隆文 第4回 教授 窪田 泰江	第2回 「健康を維持するための食事と服装: 身体の細胞をいきいきと保つために」 第3回 「加齢に伴う身体の変化と運動場の注意: 安全に運動して、身体の健康を保つために」 第4回 「超高齢社会における排尿の問題: 頻尿・尿もれについて」	昭和生涯学習センター TEL:052-852-1144 第2回~4回は、往復はがきまたはインターネットのいずれかでお申し込み下さい。 第2回~4回は、受講料900円(3回分)が必要です。 ・往復はがき 以下宛先へ往復はがきに講座名、郵便番号、住所、氏名、年代、電話番号を記入。返信票は無記入。> 〒466-0023 名古屋市昭和区石仏町1-48 昭和生涯学習センター ・インターネット 名古屋市電子申請サービス (https://www.e-shinsei.city.nagoya.jp/)

※第1回は無料・申し込み不要(先着順)です。
 ※第2回以降も受講をご希望の場合は、お申し込みと受講料900円(3回分)が必要です。

周術期ケアセンターを 2019年4月に開設しました。

名市大病院でおこなわれている手術は毎年増え続けています。一方で急性期病院に求められているとおり入院期間は短縮しています。この状況でも、患者さんによりよい医療を提供していきたいと思っています。そこで、「多職種チームにより、総合的に質の高い周術期ケアを提供する」ことを目的として、周術期ケアセンターを2019年4月に開設しました。

今はまだ対象とする手術が限られていますが、外科系診療科や周術期に関わる多くの職種と連携し、徐々に活動の範囲を広げてより多くの患者さんのお役に立ちたいと考えています。



患者さんと医療者が、あるいは医療者同士があたたく手を取り合うイメージ。4つの星は「多職種」や「術前・術中・術後・社会復帰」を表しています。

周術期という言葉は、手術の前から手術の後までの継続的な期間のことを表します。

手術前の準備



周術期ケア外来、患者サポートセンター、検査部、リハビリテーション部、臨床栄養管理室、歯科口腔外科、麻酔科、必要な場合は他の診療科で、それぞれの専門性を活かしたきめの細かい準備を行っています。患者さんが納得するとともに安心して、より安全に手術に臨めるように取り組んでいます。



手術中の管理



高度な技術による複雑な手術を、より安全に実施することを目指しています。担当する外科系診療科の医師、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士らが、手術中も協力しています。手術前の準備をしていく中で把握した患者さんに関する情報は、当センターが中心となってチーム全体で共有し、細かいところまで気を配りながら、手術が円滑に進行するよう努めています。



手術後の回復



センターでは手術後の回復が早く、できるだけ快適なものになるための活動もしています。術後回診チームの薬剤師と看護師が、痛みと吐き気の具合を確認し、医師と治療方針を相談していきます。また、リハビリ、栄養管理、口腔ケアなど、手術前から準備してきたことを必要に応じて継続しながら、順調に手術後の回復ができるよう多職種で支援しています。



社会への復帰



私たちは、退院後のことを見据えて、周術期ケアを提供しています。患者さんが早く元の生活に戻れるように、安全に手術が行われる体制を手術の前から患者さんご自身と一緒に整えていくことが当センターの使命です。また、周術期を通して病院の退院支援部門、事務課、医事課などと連携しているのも周術期ケアセンターの特徴ですので、退院後の療養生活などでお困りのことがあればいつでもご相談ください。



写真撮影協力：環境労働衛生学 講師 榎原 毅

名市大病院のチカラ Vol.18

中央手術部

高度な技術・安全で安心できる手術医療を！

中央手術部は、名市大病院のすべての手術を行う重要な部門です。16の手術室を持ち、年間約1万件の手術を行っています。手術ロボット、高精細4K・3D画像システム、ハイブリッド手術室(手術と血管カテーテルが同時にできる)、ナビゲーションシステム(術前の画像と手術部位を重ねて位置情報を提供する)などの最新の機器や施設を備え、大学病院ならではの高度な手術医療を提供しています。

最近の手術医療には、高度な技術だけでなく、高い安全性と患者さんの安心・満足も求められます。そのためには、手術中だけでなく、手術前、手術中、手術後を通した「周術期の管理」が重要です。中央手術部では、外科医、麻酔科医、歯科医、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、言語聴覚士、検査技師、事務など多職種からなるチームで、周術期管理を行っています。術前は、体の状態の評価、内服薬のチェック、口腔の評価、術前リハビリテーションなどを行い、手術が

安全に行われ、術後には円滑に回復できるよう努力しています。また、術後は、痛み対策、吐き気対策、術後リハビリテーション、嚥下訓練などを行い、術後に合併症を起こさず、円滑に回復し、速やかに社会復帰できるようにお手伝いしております。

今後も名市大病院中央手術部は、常に最新機器や高度な技術を備え、患者さんが安心して手術を受け、当院の手術医療に満足して、笑顔で退院していただけるように努めてまいります。



ハイブリッド手術室

臨床栄養管理室

多職種と連携し治療の土台である栄養療法を推進します

臨床栄養管理室では多職種との連携を図り、栄養サポートチーム(Nutrition Support Team/NST)に力を入れています。NSTでは栄養障害を早期に発見し、適切な栄養管理を行うことで病気の治癒・回復を促進し、手術後などの合併症予防に貢献することを目的に、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士などが専門知識を持ち寄って、チームで患者さんの栄養管理を実施しています。

当院NSTでは管理栄養士がまず患者訪問を行い、栄養状態の評価や食事が減っている場合は、状態に合わせた食事内容の相談や提案を行っています。また、口からの食事が充分でない場合は、チームで検討し点滴内容の見直しや鼻や胃などからチューブを挿入して、胃や腸に直接栄養剤を投与する「経腸栄養」などの栄養管理をNSTから主治医へ提案しています。経腸栄養は、安全性が高く、消化管を使うため点滴を使用した静脈栄養よりも生理的で消化管本来の機能である消化吸収、あるいは腸管免疫系の機能が維持されると言わ

れています。しかし、消化器症状(吐き気・嘔吐、下痢など)が少なからず発生することがあるため、当NSTではシンバイオティクスと呼ばれる乳酸菌と食物繊維の投与を推奨して、消化器症状の予防・軽減に努めています。

他にも「がん病態栄養専門管理栄養士」や「糖尿病療養指導士」など専門資格を所有した管理栄養士による栄養相談も行っています。治療の一環である栄養療法を推進して、充実した診療のサポートを目指しています。



栄養サポートチーム(NST)のメンバー